

令和2年度 秋葉区区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和3年1月29日（金）午後1時15分から午後2時30分まで
会 場	秋葉区役所6階 601・602会議室
出席者	秋葉区区自治協議会委員 26名（欠席4名） 教育委員：田中賢一委員、渡邊節子委員 事務局：学校支援課長、保健給食課長 学校支援課指導主事 教育総務課長補佐、教育総務課主査 新津地区公民館長、新津図書館長 秋葉区教育支援センター所長 他2名 秋葉区役所：秋葉区長 傍聴者： 3名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶
田中 教育委員	例年ですと6月から7月にかけて、第1回目の教育ミーティングを行い、今年度の新潟市教育委員会の取組をご説明させていただいて参りましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けてあらゆる活動が実施困難となっております。そんな中で、感染防止対策と子どもの学力の補償を最大の課題とし、どの学校も一丸となって取り組んでおります。自治協議会の委員の皆様からもお力添えをいただいております。心より感謝を申し上げます。本日は限られた時間ではありますが、GIGAスクール構想と新型コロナウイルス感染防止対策について説明をさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。
渡邊 教育委員	今年度は、これまで学校であたりまえに行われてきた活動が、これまでと同じようにできないという状況ではありますが、そんな中でも、子供たちと先生方ががまんをしながら、たくさんの工夫とお互いの協力で一年やってきたのではないかと思います。また、委員の皆様方からも様々な面でご協力をいただいております。ありがとうございます。このようにみなさんが顔を合わせて行う会が開催できて大変有難く思います。本会を貴重な機会と捉え、多くの意見をいただければと思います。どうぞよろしく申し上げます。
議 事	3 説明 (1) これからの時代の学校教育について（タブレットを活用した授業） (2) 新しい生活様式を踏まえた学校運営について (3) 質疑応答 ※ (1) (2) の説明内容は会議資料を参照
司 会	これより質疑応答に入ります。ただ今の説明でご意見、ご質問がある方は挙手をお願いします。また、ご発言の際は団体名とお名前をお聞かせください

<p>自治協委員</p>	<p>い。</p> <p>最初に、GIGAスクールの件についてということで、1点。実際に情報端末を活用して、リモート授業を実際に行った実績はすでにあるのかどうかということと、新潟市内、県内に限らず、実際に実績があって、その結果見えてきた課題みたいなものが整理されているのかどうか。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>例えば、外の専門家とつないで学校で授業が行われております。例えばアグリなど、そういった専門家の方と児童、生徒が、対話しながら授業を進めることはあります。その中では、やはり専門家の意見や考えがすごく率直に聞けるので、効果的だったということはあるかと思えます。あと、内野小学校では海外との交流学习もあるようです。</p> <p>ただ、やはり、できれば対面で行うことが一番いいかと思えますが、対面でできない海外や遠くの方や県をまたいで離れたところの専門家の意見を聞けるということは素晴らしいと思えます。そこは、きちんと切り分けていきたいと思っております。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>ありがとうございます。そういう情報技術の利点を活かして、本来だったら聞けない人の話を聞けるとか、時間的、物理的な制約を超えて教育を受けられるみたいなものはぜひ、積極的に取り入れていただけると、これはもう本当に素晴らしい武器になると思うのです。</p> <p>私が少し気になりましたのは、教育は情報をやり取りするだけではないですよね。実は、私も大学生を相手に授業を行っているのですが、今年はほとんどがリモート授業になりまして、パソコンの向こう側に学生がいる、生徒がいるという中で、普段伝えられる空気が伝えられないというところに一番苦労しました。気がつかないところで、もう学生がメンタルをやられてしまっていて、だんだんついていけなくなるとか、気がついたら本当に絶望的な、だれにも相談できずに、勉強もする気がおきなくて、社会にも出ていけなくてということで、沈没している学生がいつの間にか発生しています。そういう子たちのケアというものが、対面であれば、空気を通してその場で伝えられ、察知もできるのですが、それができないということが、本当に大きな落とし穴ということを1年感じながらやってきたのです。</p> <p>ひょっとすると、先生方はそういう情報の受け渡しは便利になるのですが、空気をより読み取る技術というか、努力をそこにさかなければならない。あと、授業の準備も余計に手間がかかるということも、私の経験上、すごく感じているところでして、余計丁寧に授業や学校生活の組み立てをしていかないと、気がつかないところで子どもたちがついてこれないとか、何か違う方向にいつてしまうということが起こる懸念がととても、一方にはあ</p>

	<p>る。便利なばかりではなくて。本当に、コミュニケーションの基本は、対面でのリアルなコミュニケーションというところを中心に、学校の学びと生活を。福祉や安全というものも大きな役割だという課長の話がありましたけれども、そこをどうやって情報端末を活用しながら確保していくのか、というところがとても重要なポイントになってくると思いますので、その辺の意味を込めまして、コロナ禍の中で、子どもたちが家庭にしながら、実際にGIGAスクール的な学びを提供して、そのフィードバックみたいなものがあるのかどうなのかというところが気になったのです。その辺はどうなのでしょう。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>今、ご指摘いただいたとおり、リアルなところがとても重要だと思いますので、そこについては今後、こういった活用が本格的になってくると出てくる問題だと思いますので、大切にしていかなければいけない、最優先にしていかなければいけないところだろうと思います。まだ、家庭に持ち帰っていないですし、まだ休校中のリモートは行っておりませんので、その次には、そういったことを第一優先で考えていかなければいけない、心のところは優先なのだろうとは思っております。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>ありがとうございます。ぜひ、もう導入する前に想定される課題を洗い出して。本当に、今までデジタル・デバインドなどという話が若者と高齢者の間でけっこう指摘されていた問題としてあるのですけれども、子どもたちの中に、きっと生じるデジタル・デバインドというものが出てくるはずなのです。そのところだけ、ぜひ研究していただければと思います。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>マイナスの面というものはないのですか。例えば、教員が、この負担がどうなるのか。35人学級になると言っていますけれども、35人の生徒たち、子どもたちに、1人の教員がきちんと対応できるのか。そういったところです。マイナスの面というところは検討されているのでしょうか。今、会長が言われたように、課題ということですが、具体的にはどういうマイナス面を想定して、それをどうしようとされているのか。事前に対応、対処を考えていく必要があると思うのですけれども、どうでしょうか。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>GIGAスクール構想についての課題といいますと、先ほども話があったとおり、教員が多忙になる、教員の技能が下がるというところはどうしてもあろうかと思えます。教育委員会としても、今年度1年間かけて5回、全体の研修を行ってまいりました。考え方から、機器の使い方から様々なことをやってきました。</p> <p>また、今年度については、全体で周知をただけだと当然、認知されない</p>

	<p>ところもあるでしょうから、今年度については、G I G Aスクールサポーターということで、各校にサポーターが行って研修会を行ったり、私もこの前見てきたのですけれども、授業開きというところにもG I G Aスクールサポーターと一緒に入って授業をしたりと。その授業では、前のほうで一人の担任の先生が進め、3人のサポーターが戸惑っている子どもに寄り添ったり、また先生方と一緒に協力しながら進めていったりという姿もありました。また、今、そうやって少しずつ始まっている中で出てくる課題もあろうかと思えますので、各学校の要望に応じて、まだこの研修を行ってほしいというものの対応を順次しております。</p> <p>また来年度、4月以降につきましても、I C T支援員がサポートをしていくという計画になっております。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>サポーターが、1人の先生に3人もつくという。今は試験段階で、そういうことができるけれども、実際、全面的に始まった場合にサポーター全員、1人の先生に3人ずつのサポーターの方がつくというような体制は、本当に現実的にとれるのでしょうか。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>今、もう、全部のクラスに毎回3人ずつついているわけではなくて、要請のあったところに入っていっております。そのような形で、その要請に応じて、必要なところに張り付けていく。また、学校と相談しながら進めていっておりますが、すべてというわけではございません。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>分かりました。とても革命的な素晴らしいことだと思うので、マイナス面もよく考えて、それを克服するというやり方でやってほしいと思います。</p> <p>もう一つ。この予算は、タブレットを子ども一人一人に貸付なのですね。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>貸与といって、貸しております。例えば、卒業したら返すという形になって、小学校でいうと、6年生が返したものを次の1年生が使うという形です。中学校でいうと、3年生が置いていったものを中1が使うという貸出になっています。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>6年もそれを使うということになると、6年もすれば、タブレットはもう陳腐になっているのではないのですか。また、予算がかかるのではないですか。そういう心配はあるけれども。頑張ってください。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>根本的なことを聞くのですけれども、こういうG I G Aスクールによって、知識を一人一人がそのペースに応じてやっていけるとなった場合、学校の役割は何でしょう。教師の役割は何でしょう。私は、そこを聞きたいので</p>

	<p>す。お願いします。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>やはり、学校という場面はリアルな場面で、生徒同士が向き合い、高め合っていくところだと思います。どうしても、GIGAスクールで、例えば、パソコンに向かって、パソコンとだけしか対話をしないというか、かかわらないというイメージがある人もいるのかもしれませんが、タブレット、iPadを通して表現できるものが、非常に多いかと思います。自分が作ったものが、それがまた視覚化されて分かりやすい形でまとまっていますので、先ほどの映像のように、それを使って仲間と交流し、そこで新しいものを生み出すというところが今後、教師の役割になっていくかと思います。ですので、教えるというよりはコーディネートするというか。こちらの子とこちらの子が分かっているものを、うまい具合に組み合わせて、また新しいものを生む。そして、それをまたフィードバックして、考えが練り上がっていく。そんな役割が、今までからも重要視されてきたのですが、今後はもっと、もっと重要になってきて、それがまたやりやすくなる道具の一つかと思っています。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>今まで、学校で、例えば、みんな集めて先生が教える知識というものがあつたのですけれども、知識の部分は、学ぶ部分はGIGAスクールだとあるので、先生の役割というものは、一人一人出てきたものをコーディネートするというか、それを全体的に高めていくというふうな感じなのではないでしょうか。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>今、そこにフォーカスしてお話をしたので、そこだけの話になってしまいました。当然、知識を得るところ、習得するところや、例えば、技能系の教科であれば技能を習得するようなどころというものはとても大切で、それがあって、そういう知識があつての知識を発表するということにつながっていくと思いますので、そこも当然、今までどおり進めていくことになります。</p> <p>ただ、集める道具として、こういったiPadという道具が入ってきた、その一つの道具が増えたということであると考えています。当然、知識を得ることもとても重要なので、それをすべて任せてしまうということではございません。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>機械を使ってこういう使い方がある、ああいう使い方があると発見することはよいこと。音声だけで入力できればそれでいいのですけれども、さっと入力する力を持つということは、小学校のときに身に付けさせたら、本人は死ぬまでその力が活用できるというかと思うのです。ですから、私は、こういうソフトあるいはiPadの力を利用して、いろいろなデータを集める、あるいはいろいろな発表をするということももちろん。これは非常に大事な</p>

	<p>ことなのですけれども、その前提として、一番子どもたちの身について損をしない部分というものは、毎日、例えば学校の先生が、ホームルームの10分の時間をみんなで入力する、練習しようというようなことで使ってもらえると、先生も子どもも、簡単に私はそういう力がつくと思うのですが、そういうあたりの考えはないでしょうか。ぜひ、学校でこそ、それができるのではないかと。それも公平に、どんな子どもにもそれが力を付けさせられるという意味で、とても大事ではないかと思っているのですが、その辺どうでしょうか。</p> <p>学校支援課 先ほどのiPadの画像にもあったとおり、iPadを導入するときのキーボードをつけることになりました。とても大切だと思っています。情報活用能力ということで、文部科学省もとても重要なものというふうに捉えています。タブレット自体を使うことは方法の一つであって、目的は、主体的で、対話的で、深い学びと言われている本来の目的のほうだとも言われているのですが、同時に、今おっしゃっていただいたとおり、タイピング能力というものも目的の一つだと思います。</p> <p>実は、GIGAスクールのガイドラインも出してございまして、ホームページにも出ているのです。そこにも、日々の授業の中で、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成、活用しながら、各教科の資質・能力を育成していくということになっています。それが前提になっております。</p> <p>先ほど申し上げたとおり、方法だけではなく目的でもあるというこの二つのことを同時に達成していくように、また学校にも伝えてあります。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>民生委員の立場で、一つお聞きしたいです。タブレット端末活用にかかわる主なお願いというところに、家庭に持ち帰り、家庭のWi-Fi環境の整備ということが必要になってくるときがくるわけですね。今すぐではないけれども。そうしますと、やはり、経済的な格差というのは現実にあるわけですから、そこら辺の家庭の負担がどうなのかとか、そういうことを私は考え、心配しました。</p> <p>子ども食堂が実際に必要な時代、必要とされる時代。それから、食料、食べるものが足りないという層の方もいらっしゃるわけですから。福祉にかかわる仕事をさせていただいている私としては、そういう対応はしていただけないのかと懸念しております。お答えください。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>私たちがタブレット導入で、家庭に持ち帰りを想定したときに、家庭にWi-Fi環境がないときにどうするのかということを、春先以来ずっと考えてきました。当初は、例えば生活保護の世帯、就学援助を受けていらっしゃる世帯、あるいは特別支援学校、学級にお子さんが通っている世帯であった</p>

	<p>り、児童、生徒がどのくらいの人数いるのかという調査なども行って、そこに通信料等補助した場合にどうなるのかという想定もいたしました。ただ、現実的にこれを来年だけではなく、ずっと継続的にその分の予算を確保するという事は非常に厳しいということが、まず1点ございます。</p> <p>もう一つは、実際に生活保護の世帯があっても、家庭にネット環境があるご家庭もあったり、あるいはそうでないご世帯でも、家庭の方針でWi-Fi環境のないご家庭があったり、やはりいろいろな事情がある中で、ある世帯にだけ補助をするというあたり、公平性の点からまだ壁が残る。当然、我々としても補助ができるのであれば、したいという思いも当然ずっと持ち続けているのですけれども、いろいろなことを総合的に判断したうえで、今の段階では、通信料については家庭のほうにご負担をいただく方向で今、進めているのですが、それを早めに周知をしていく。ただ、ルーターとって、Wi-Fiに変わる機会自体は無料で貸出をする。ただ、通信料だけのご負担いただくという方向で今、考えております。今、ご指摘いただいた点につきましては、今後も課題となっていくと思いますので、引き続き考えてはまいりたいと思います。</p>
自治協委員	<p>まず(2)のコロナに伴うということで、スライドの資料の6ページ、スライド番号11を一つ教えていただきたいのが、まず1点です。一番下の購入した未実施のテスト、プリント等は、確実に返却するという記載があるのですけれども、これは何か返すとお金が戻ってくるとか、本や雑誌や新聞などそういう括りのものになるのでしょうか。</p>
学校支援課	<p>ご説明いたします。このスライドにつきましては、昨年度末の3月27日、新年度を迎える前に発出したものです。購入した未実施のテスト、プリントは、昨年度の2月で学校がぶつくりと終わってしまいましたので、3月にやろうと思っていたテストやプリントがそのまま残っているのです。それは、確実に返却をしましょうという意味で書かせていただきました。それをそのまま取っておいて、年が明けてから、次の学年で実際に学習に活用した学校もあると思いますが、お金を保護者から負担していただいて購入したテストやプリントですので、それを未使用のまま終わることがないようにという意味で書かせていただきました。返却するというのは、家庭に返却をするという意味です。</p>
自治協委員	<p>ありがとうございました。先ほどのタブレットのことで1点、意見です。文字入力に関しては、今の子のほうが我々よりもよっぽどスマホをいじり慣れていたり、パソコンを使い慣れているので、小林さんがご心配している以上によくできると思っています。</p>

	<p>もう一つ、私のご提案です。先ほど、支援するサポーターの先生を入れるということで、今どういう状況で、どういう人が選定されているのか分からないのですけれども、学校の教育、大学の教育学部であったり、教職をとられている生徒、そういう忙しい学生ではあるかもしれないのですけれども、ぜひそういうところにも声をかけて。そうすれば先生になったときに、絶対にこのタブレットを使って子どもに教えないといけないという状況になることは、当然のごとくそうなると思うので、ぜひそういう学生にも声をかけたりしていただくと、サポーターをされる側もいいし、学生自体も言語を学ぶことができるのではないかと思ったので、こちらはご提案の意見をさせていただきました。地域性で、公平性がどうなのかという部分はもちろんあるかと思うのです。課題もいろいろあるかと思うのですけれども、ぜひ、ご検討をいただければと思います。</p>
学校支援課	<p>教育学部の学生というお話をいただきました。当然、学業との両立もあろうかと思しますので、そこら辺のところとGIGAスクールサポーター、今後あるICT支援員の条件と照らしながら選んでいくのだらうと思います。教育学部の学生については今、学習ボランティアということで、各学校に入っていておられます。入っている時間等が、本文である学問とのバランスがとれているというところに入っているのだと思います。そういったチャンスも学生にはございます。</p> <p>最初にお話したとおり、GIGAスクールサポーター、今後あるICT支援員については、そういった条件のところ、何日来られるかといったところが非常に大きくなってきます。ご意見ありがとうございます。</p>
自治協委員	<p>ICTサポーターは現在、どのくらいの規模いるのか。各学校に何人配置するとか、そういう具体的な構想があれば、それを聞かせてほしいです。</p> <p>あと、先ほど民生委員の方からのお話がありましたけれども、学校教育は、やはり1憲法にも無償だと書かれているわけだから、通信費などそういうものも、ぜひとも今後の要望として、家庭に負担させるのではなくて、国でもっていくという方向にぜひともしていただきたいです。タブレットを家に持ち帰って勉強すると、1家庭に3人お子さんがいらっしゃる場合は、環境ができない家庭もありますよね。Wi-Fi環境が整っていない。そういうことはどうするのかな、そういうこともきちんと整えていただきたいということです。</p> <p>コロナのもとで、先生方は本当に消毒からいろいろなことで、もう本当に心身ともにすり減らして頑張っていると思います。この前、学校訪問をしたときに修学旅行の話なども聞かせていただいて、遠くには東京、関東方面には行けないけれども、身近な新潟の、例えば三条でものづくりを体験するとかそういう、子どもたちがとても喜んだ修学旅行を体験させたというお話を聞いてきまし</p>

<p>学校支援課</p>	<p>た。先生方は本当に、いろいろ自分の休みでもどこかに行けない。自分がコロナになったら学校に移してしまうと。ぜひ、先生方にPCR検査をしていただきたいと思います。</p> <p>GIGAスクールサポーターについて、今年度については、認可校に1人ということについております。来年度から、ICT支援員については4校に1人です。また、この動きについては、先ほど言ったとおり、学校の要望に応じて柔軟に対応していく予定であります。</p>
<p>保健給食課</p>	<p>PCR検査については、私からお話させていただきます。今、おっしゃられたように、そのようなご希望もあるかと思うのですが、全体の中では、今、感染の可能性のある方にPCR検査をさせていただいておりました、市全体の中で、そのような要望があったということをお聞きさせていただきたいと思います。ただ、今の現段階で、教育委員会という立場だけで、ここにPCR検査というところは、なかなか今は難しい状況になっております。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>質問というよりは、ご一緒に、大人の責任として考えていきたい問いがあります。一つが、発達段階を踏まえての使用として、安全安心な環境を保障できるのでしょうかということです。</p> <p>イタリアで、10歳の女の子がアプリを使って、自分の首を絞めて亡くなったという事件がありました。ここには、フィルタリングや制限と書いてあるのですが、フィルタリングや制限の解除の仕方を検索して、自分で解除できる子たちもいます。ですので、そこへの対応ということと一緒に考えていけたらと思っております。</p> <p>2点目は、認知的発達が促される道具として妥当なのかというところです。iPadの場合、手指の動きが、本当に簡略化されています。指の動きと脳の働きは密接につながっていますので、小学校の一、二年生あたりは特に、手指を使った図画工作やそういったところのほう为重点的に行われるべきではないかと思っております。ですので、その部分もご一緒に考えていけたら思っているところです。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>GIGAのことです。国際化や情報化社会で、これからを見据えた、外国の教育やデジタル活用ということで、大変これからあるべき姿だと私は説明を聞いて思いました。</p> <p>その中で、ただ、こういうデジタル化が進んできますと人間性という点が少し、どういうふうに。学校教育というのは、やはり一番大事なことは、子どもが成長するときですから、知識ばかりではなくていろいろなもの、成長</p>

<p>学校支援課</p>	<p>していく中で人間力というものも大事だと思うのです。そういう人間力というものを、こういう時代の中で、これからどのようにして、その中で活かしていくか、活用していくか。これもGIGAの中で、先ほどの説明を見ますと、主体的、対話的で、深い学びを実現するというふうなところがあるので、その辺のところ、これから相変わらずあるかと思うのですけれども、いじめや不登校、この辺のところをどのように活用してくるかというところを、ありましたら教えていただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。一番大切なところだと思います。道具ばかり入って、心の部分が失われてはだめなわけです。当然、情報モラルについても重点的に指導していきたいと思います。私たちは、道具を使って道具で終わるのではなくて、道具を使って、より今まで以上に子どもたち同士がかかわり合いながら、先ほども申し上げましたが、練り上げていったりして成長していくことを願っております。そういうことができるものだと思っております。道具で終わらずに、この道具を使ってかかわり合いをどんどん深めていく。そして、人のかかわりを学んでいく。そういったことを実現していきたいと思っております。</p>
<p>学校支援課長</p>	<p>続けます。人間力、おっしゃるとおりだと思います。知識、技能だけではなくて、今新しい指導要領では、三つの資質・能力を幼稚園から大学までみんな、3本柱として日本全体で育てていこうとしています。ですから、三つというのは、知識、技能、そして思考、判断、表現、学びに向かう力、人間性の三つをきちんと、どの教科でもバランスよく育てていきたいと思います。そこが、まず根本になります。ですから、今お話があった人間性、ここを忘れてはならないと思います。</p> <p>ただ、これからの時代に求められる予測不可能の時代に、自らの人生を自ら切り開いていく力を育てていくために、タブレット端末を有効に使っていければと思います。ただ、その際に、本物体験とのバランスをしっかりとっていくことが大切であると思います。先ほど、手を使うというお話がございましたが、手は体の外に出た脳であるという哲学者の言葉もございます。タップしたりスライドするだけではなく、実際に手触りを感じながら、手を使っていくということで、当然、子どもの発達にとって大切であると。</p> <p>最後に、AIにはできないことが三つあるということ、書物で読んだことがあるのですけれども、慈悲の心、コミュニケーション、判断。AIはAIなりに判断したりコミュニケーションをするのかもしれませんが、私が読んだ本では慈悲の心、コミュニケーション、判断するということが人間にしかできないことであるというふうに書いてありました。こういったことも大切にしていかなければなりません。</p> <p>先ほど、いじめ、不登校との関連というお話がございましたが、いじめに</p>

	<p>ついて、タブレットをどう活用していくのかというところは、現段階ではぱっと思いつかないのですけれども、不登校等に関しましては、なかなか集団の中で学ぶことが苦手なお子さんを、オンラインなどでつながりながら、学ぶ場を保障するという形では活用できるかと思いますが、それでは、そもそも不登校の根本的な解消にはなりませんので、それを使いながら、何を指していくのかというところはきちんと持つておく必要があると思います。とにかく、つながりを持って、登校を促すだけではないということが今の流れとなっておりますので、つながるといことが大切かと思っています。</p>
議 事	<p>4 秋葉区自治協議会会長挨拶</p>
自治協議会 会長	<p>本日は、秋葉区教育ミーティングを開催していただきまして、改めてお礼を申し上げます。そして、委員の皆さんも大変お疲れ様でした。貴重なご意見を出していただきありがとうございました。</p> <p>非常に、私たちにとっても、現状がどうなっているのかとか、新しい次世代に向けた教育のあり方ということで、学び多き有意義な時間だったと思います。本当に、私も人間性という言葉で、そののころを真ん中に据えた、新しい時代の教育ということをぜひ、一緒に考えていきたいというふうに思いを新たにいたしました。</p> <p>GIGAスクール構想にしてみましても、新型コロナウイルスへの対応にしましても、もう本当に様々な課題があふれている、そんな昨今。これから、来年度、直近はすぐにでも考えて行動に移さなければならないという、そういった意味だと思っております。皆さん、そういうときこそ、人間性を伝えられるような教育が重要だと思っております。暖かさだとかそういったものも含めて、子どもたちに新潟に生まれてよかった、ここで勉強することができてよかったと思えるような学校であり、地域であり、家庭であるということが、本当に我々の共通の目的だと思っております。</p> <p>特に、自治協議会としましては、教育における地域の役割というところを、しっかりと果たすべきですし、その点において教育界の皆様と手を結んでやっていく、そんなことを模索させていただきたいという気持ちでいっぱいです。</p> <p>本当を言いますと、教育委員のお2人にも、ぜひお考えをお伺いしたかったところではあるのですが、私どもの自治協議会は想定する以上の意見が出る傾向にあるのです。なかなか時間を読みづらいという会議をいつもやっておりまして、時間が足りなくなってしまうのですけれども、また別の機会に意見交換等をさせていただければと思っております。</p> <p>ということで、ソサエティ 5.0 なんていう言葉も出てきましたけれども、本当に教育力も 5.0 になっていかなければならない。そんなことを、引き続き、一緒に考えさせていただきたいと思っております。今日は、本当にありがとうございました。</p>

議 事	5 閉会
司 会	以上をもちまして、令和2年度秋葉区教育ミーティングを閉会いたします。皆さま、長時間にわたりありがとうございました。